

第 31 期派遣レポート

派遣期間 平成 23 年 7 月 7 日（木）～平成 23 年 7 月 12 日（火）
派遣先 福島県災害ボランティアセンター（7/7～7/8）
相馬市災害ボランティアセンター（7/9～7/12）
派遣職員 横内 昭人

7 月 7 日に福島市入りし、8 日までの 2 日間、福島県災害ボランティアセンターにおいて、被災地社協の支援で現地入りする福島県外社協職員の受け入れ調整のお手伝いをした後、9 日から 12 日までの 4 日間、相馬市災害ボランティアセンターにおいて、ボランティアコーディネーターや仮設住宅入居者への訪問見守り活動などのお手伝いをしてきました。



福島県災害ボランティアセンター内に
掲示の県内災害ボランティアセンター
分布図



相馬市内の仮設住宅

福島県内も東京同様、気温が連日 30 度を超え、ボランティアさんにとっては、暑さのなかでの過酷な作業環境となっていますが、それにもかかわらず県内外から多くのボランティアさんにお越しいただいています。本当に頭の下がる思いです。

震災当日は、東北地方では雪もちらつく肌寒い天候だったそうです。相馬市災害ボランティアセンターで迎えた 7 月 11 日は、福島県内では梅雨明けとなりました。ボランティアセンターの窓からは緑に囲まれた美しい歴史ある街並みが見渡せました。ちょうど、この日で 3 月 11 日の震災発生から 4 か月が経過しました。肌で感じる気温、目に映る景色から、時が進んだということと町は前を向いて復興に向けて歩みを進めているということを改めて実感させられまし

た。参考までに相馬市災害ボランティアセンターにおける、震災 1 か月後の 4 月 10 日、4 か月後の 7 月 11 日時点におけるボランティアさんの活動状況を示します。

日にち	ボランティア依頼件数	ボランティア活動者数
4 月 10 日	53 件	277 名
7 月 11 日	5 件	19 名

泥かき等の依頼は少なくなってきました。

現在の福島県内の状況は、被災者が避難所から仮設住宅や賃貸住宅等への移転が進んでおり、災害ボランティアセンターの役割も緊急時支援から復興支援の役割に移行しつつあります。

福島県内の被災地の社会福祉協議会では、生活支援相談員を雇用、配置していく動きにあるそうです。

生活支援相談員は仮設住宅を中心に、被災者宅を訪問し、心配事や悩み事などの相談にのり、専門機関や NPO・ボランティア団体につなげ心配事の解消を図ります。また、地域住民によるコミュニティ形成の場となるサロン活動を行う手伝いなどを想定しているそうです。

復興への道のりは、長くなるものと思いますが、被災地では少しずつ前を向いて歩みを始めています。短い期間でしたが、復興に携わった者として、今後、私たちに今できることは何かということを考えながら、応援していきたいです。